

大川村 1小 1中 1保育園

学級数、児童・生徒数、教職員数

	学級数	児童・生徒数	教職員数
大川小学校	3 (低、中、高 複式)	16 (内 留学生2)	7 (小中兼務発令)
大川中学校	3	16 (内 留学生10)	12 (小中兼務発令)
つぼみ保育園	4 (2歳~5歳児)	8	4

(※大川小中は、ほかに 用務員、ALT、支援員)

地域との連携の必要性①

【現状と課題】

- 少子高齢化、過疎化
→ 児童生徒数減少
- 学校の統合
→ 教職員数の減少 教員の負担感
- 教育指導内容の多様化
- 地域住民の学校に対するニーズ

地域に根付く子どもたちを育てる教育が
厳しい状況が予測された。



地域との連携の必要性②

【課題をふまえて】

- 学校教育に対する地域住民等の信頼に応える
- 子どもと向き合う時間の確保
→学校外からの協力や支援が不可欠
- 教育の成果をあげる
→地域との意思疎通、住民との方向性の共有化
- ニーズを聞き取る場の確保
→様々なニーズのうち、関係者にとって必要なものを 学校運営に反映させる仕組みが必要

コミュニティ・スクールへの取組

■CSの構想検討

大川村に学校を残したいという地域の思い

○平成17年・・・小中一貫校として、特色ある学校づくりを推進

○平成20年度・・・大川村学校支援地域本部を立ち上げる

→学校への関わり、積極的に参加する機運の高まり

○平成23年・・・学校支援地域本部をベースにして学校運営協議会制度(CS)の導入準備・研究をすすめる

CS設置準備委員会（H23 1月～H24 3月末）

■平成23年2月・・・1回目の準備委員会

- ・イメージの共有
- ・準備委員会実施要綱の確認
- ・設置の意義について、共通理解
- ・大川村が目指すCS像
- ・地区懇談会で地域住民への説明

■平成23年4月～平成24年3月・・・年間6回の準備委員会

2か月に1回実施、委員11名

11

大川村コミュニティ・スクール

「ふるさとを愛し、ふるさとの未来を
託せる人材を育む教育」
を意図的に仕組む

- これまでもすすめてきた小中一貫教育を継承
- コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の充実を図り、地域に開かれ、地域に支えられる学校づくりを目指す。



12